

普及活動現地情報

「農業現場では、今」

平成31年1月号



【海草振興局】重点プロジェクト【次世代につなぐ下津みかん産地への取り組み】
～貯蔵に適する温州みかん優良系統の調査を実施～

和歌山県農林水産部経営支援課

(農業革新支援センター)

はじめに

普及活動現地情報は、普及指導員等が行う農業の技術普及、担い手育成、調査研究、地域づくり等の多岐に渡る現場普及活動や、運営支援を行っている関係団体の活動、産地の動向等、その時々々の旬な現場の情報をとりまとめたものです。

それぞれの地域毎の実情に応じて、特徴ある普及活動を展開していますので、是非、御一読頂き、本情報を通じて、普及活動に対する御理解を深めて頂くと共に、関係者の皆様にとって、今後の参考になれば幸いです。

また、本情報については、カラー版（PDF ファイル）を和歌山県ホームページ内（農林水産部経営支援課：アドレスは下記を御参照下さい。）に掲載しており、過去の情報も閲覧出来ますので、併せて御活用下さい。

和歌山県農林水産部経営支援課ホームページ 普及現地情報アドレス

<http://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/070900/hukyu/>

検索サイトより、以下のキーワードで御検索下さい。

和歌山県 経営支援課 普及



< 目 次 >

頁数

I 海草振興局	1 - 2
1. 重点プロジェクト【次世代につなぐ下津みかん産地への取り組み】 ～貯蔵に適する温州みかん優良系統の調査を実施～	
2. 海南市農業士会が県外研修会を実施	
II 那賀振興局	3 - 4
1. 岩出市立岩出第二中学校で郷土食体験を開催	
2. 紀の川市4Hクラブと県4Hクラブ連絡協議会の交流 現地交流会～低コスト簡易ハウスの活用～	
III 伊都振興局	5 - 6
1. 伊都地方農業士連絡協議会の経営事例発表会を開催	
2. 伊都地方農業士連絡協議会が奈良・大阪方面へ先進地研修を実施	
IV 有田振興局	7
1. 平成30年度有田地方青年農業者会議、農業経営基礎講座を開催！	
V 日高振興局	8 - 12
1. 第32回地域農業を考える日高のつどいを開催 「元気！やる気！日高農業 われらが主役」	
2. 由良町農山漁村女性の日交流会を開催	
3. 日高地方生活研究グループ連協が食育推進研修会を実施	
4. 平成30年度日高地方青年農業者会議を開催	
5. 御坊市4Hクラブが園地巡回を実施 互いの園地で工夫を実感	

VI 西牟婁振興局 **13-15**

1. 川添緑茶研究会が新春初もみ会と初もみ茶を楽しむ会を開催！
2. 第1回女性起業支援研修会を開催
3. 西牟婁地方農業士会連絡協議会女性部会が先進地研修を開催！

VII 東牟婁振興局 **16**

1. 重点プロジェクト【新規就農者の育成を核としたイチゴの産地育成】
～イチゴハダニ類の天敵防除実証圃で天敵追加放飼を実施～

VIII 農林大学校 就農支援センター **17-18**

1. 特別研修「フラワーアレンジメントについて」を開催
2. 特別研修「産地視察」を開催

IX 経営支援課（農業革新支援センター） **19-21**

1. 和歌山県農業士会連絡協議会 青年農業士部会活動
経営発展セミナー、車座座談会に参加
2. 県農林水産業のリーダーを認定
～平成30年度農業士・林業士・漁業士認定式を開催～
3. 平成30年度和歌山県青年農業者会議が開催されました

I 海草振興局

1. 重点プロジェクト【次世代につなぐ下津みかん産地への取り組み】 ～貯蔵に適する温州みかん優良系統の調査を実施～

農業水産振興課では、昨年度より J Aながみね、果樹試験場と協力して貯蔵に適する温州みかん優良系統の調査を実施している。

調査対象は生産者の中で、浮皮しにくいと評価が高い系統中心に、今年度は、9つの系統について10カ所で調査している。

7月以降、樹勢や着果状況などの現地調査を実施しており、12月の収穫時の品質調査を経て、1月23日に貯蔵中の中間調査を実施した。

今年度は、産地として全体的に浮皮の発生が多く見られた中、調査系統の中には浮皮がほとんど発生していない系統もあり期待が高まるが、貯蔵性が最も優れる収穫適期等を見極めていく必要性もあり、今後も検討を進めていく予定。この他にも、今年度が着果初年度となる系統もあり、併せて検討を進める。

2月に貯蔵に関する最終調査を行うとともに J Aの部会等で食味評価会や意見交換会を開催し、生産者の意見も取り入れながら、優良系統等の選定を進めていく予定。



収穫前の現地調査



貯蔵中のみかんの調査

2. 海南市農業士会が県外研修会を実施

1月24日、海南市農業士会（会長：笹尾拓司）が滋賀県の直売所見学など県外研修を実施し、会員及びOB併せて5名が参加した。

滋賀県野洲市において個人で直売所を運営している(株)南農園を訪問し、代表の南次雄氏から説明を受けた。

(株)南農園では、家族、社員とともに梨をメインに富有柿、ブドウ、ブルーベリーなど6種類の果樹を1.5ha栽培するとともに養蜂にも取り組んでいる。

また、「お客さんがいつ来ても商品があるように」との思いから、直売所に加工場を併設し、果実酢やドライフルーツ、冷蔵富有柿、ハチミツなどを製造している。このように、自社生産した果樹と加工品を一年を通して直売所で販売することによって、安定した収入になるとのことであった。説明の後は、果樹の栽培や鳥獣害対策、加工の取組等の話題で熱心に情報交換を行っていた。

続いて、甲賀市で農業法人「るシオールファーム」が運営し、自社農産物を使った料理を提供する農家レストラン「VegeRice-べじらいす-」、併設する直売所「農家のお店 るシオール」で農産物や自家産加工品等の販売状況を見学した。

当課では今後も農業士会活動を支援していく。



南代表から説明を受ける参加者



南農園の果実酢やジャム



「農家のお店 るシオールファーム」



「VegeRice-べじらいす-」の自家産食材を使ったプレート

Ⅱ 那賀振興局

1. 岩出市立岩出第二中学校で郷土食体験を開催

那賀振興局農業水産振興課では、1月17日～18日、岩出第二中学校2年生8クラス251名を対象に、郷土食料理体験を実施した。

この活動は、子供達が地元農産物と地域に伝わる食文化についての理解を深めることを目的として行っており、「お雑煮」と岩出市特産のなばなを使った「ごまあえ」の調理を実習した。

当日、森普及指導員と岩出市生活研究グループ協議会（会長：福田清子）の会員34名（2日間延べ）が講師となり、指導をおこなった。材料の野菜（青味大根、金時人参、里芋、なばな）および餅、みそはグループ員が作ったものを活用した。

福田会長からは、なばなは岩出市の特産で栄養価が高くかぜの予防に効果があるとの紹介があった。実習を行った生徒からは、「なばなは苦みがあると思ったが美味しかった」、「岩出市の農業を知ることが出来て良かった」等との感想がでて、残さず完食した。

先月開催した岩出中学校の郷土食体験と合わせ、岩出市内の中学2年生全員に、岩出の農業についての理解を深めるとともに、郷土食の普及を行うことが出来た。

当課では、今後も生活研究グループや農家と連携しながら、食育活動を推進していく。



実習



生徒達が作った雑煮とナバナのごま和え

2. 紀の川市4Hクラブと県4Hクラブ連絡協議会の交流 現地交流会～低コスト簡易ハウスの活用～

1月16日、紀の川市4Hクラブ（会長：米田基人）と県4Hクラブ連絡協議会（会長：小杉耕平）の交流を目的に現地交流会を行った。

現地交流会場は、紀の川市4Hクラブ会長の米田氏が紀の川市貴志川町に設置している低コスト簡易ハウスで、米田氏から設置が簡単で自己施工できることや、ビニールハウスと比較して資材費が安く設置できること、冬場でも無加温で栽培できる品目であれば利用できることなどが説明された。

参加した各地のクラブ員らは、質疑応答や情報交換をしながら交流を深めていた。



現地視察

Ⅲ 伊都振興局

1. 伊都地方農業士連絡協議会の経営事例発表会を開催

1月22日、伊都振興局において伊都地方農業士連絡協議会（会長：廣田哲也）の経営事例発表会を開催。農業士、若手農業者、市町等の関係者ら35名が出席した。

かき・もも研究所の古田副主査研究員から「最近のカキの品種・育種の動向と新品種「紀州てまり」の特性」と題して講演と質疑応答があった後、指導農業士の井上公雄氏（橋本市）、松岡和美氏（かつらぎ町）、山本恵造氏（九度山町）がそれぞれ自身の経営概要等について発表した。

今後の経営方針について、井上氏は、BM菌活用による肥培管理で美味しい柿づくりを実践するとともに、人の繋がりを大切にして、約3haの経営規模（現状維持）で営農を続けていくと話された。

松岡氏は、獣害対策として音波発信機を活用していることを紹介し、後継者（娘婿）が退職するまで、現状維持で楽しい農業を続けていくと説明した。

山本氏は、既に、労力に見合った規模（柿150a、桃20a）に縮小しており、「販売にバランス感覚を持つこと」、「少しでも良いから自分で売る」ことの重要性を力説した。

続いて、廣田会長の進行で意見交換を実施。会場の出席者から発表者に対し「雇用の確保をどの様に行っているか」、また古田副主査研究員に対し「紀州てまり」の接ぎ木親和性、遅れ花の着生、日持ち性、罹病性などについて質問が出された。

農業水産振興課では、今後も、若手農業者との交流を盛んにし、本協議会が地域農業の活性化や就農支援の一役を担えるように支援していく。



発表者との意見交換



質疑を受ける古田副主査研究員

2. 伊都地方農業士連絡協議会が奈良・大阪方面へ先進地研修を実施

1月28日、伊都地方農業士連絡協議会（会長：廣田哲也）は、就農希望者への技術習得支援の優良事例、農産物加工、農産物直売所の見学を通して、自己研鑽と会員相互の親睦を図るため、農業生産法人山口農園（奈良県宇陀市）、河内ワイン館（大阪府羽曳野市）、いずみファーマーズ葉菜の森（大阪府和泉市）を訪問。会員ら17名が出席した。

山口農園は中山間地にあり、経営面積10ha、ハウス165棟で有機野菜（葉物）を栽培している。山口社長からスライドを使って、農園の概要、設立までの経緯、微生物の活用（完熟牛糞堆肥施用）等の説明を受けた。就農支援として、2年間正社員として雇用（準備型に相当）し、さらに独立を希望する者には農地を斡旋し、生産物の販売（共同出荷）まで支援している。自主防災組織や、地域イベントにも参加。6次産業化にも取り組んでおり、有機野菜を使った餃子など商品化し、地域の中で雇用創出と地域の活性化に一役を担っている。

河内ワインは、昭和9年の台風被害を受けたブドウの利用が始まりで、ワイン工場では最新の搾汁機や熟成の過程などを見学し、ワイン館では白と赤ワインの製造方法や機能性の違いの説明を聞いた。

葉菜の森では、大塚店長らから当直売所の概要説明の後、和泉市などの地場農産物や和歌山県産果実の販売状況を見学した。

本協議会では、これら視察研修を通して会員間の連携を強め、地域の活性化に繋げていく。



山口社長から説明を聞く



完熟牛糞堆肥づくり



河内ワイン館



工場見学

IV 有田振興局

1. 平成30年度有田地方青年農業者会議、農業経営基礎講座を開催！

1月21日、農業水産振興課、有田地方4Hクラブ連絡協議会の共催で、果樹試験場大会議室にて「平成30年度有田地方青年農業者会議」を開催し、管内の4Hクラブ員や関係者ら合わせて37名が参加した。本会議は、クラブ員が日頃の農業に対する研究成果や経営内容を発表し、当面する問題の解決方法や発展方向を見だし、地域農業発展に寄与するとともに、クラブ員の資質向上と相互交流を図ることを目的に開催している。

本年度は、湯浅町4Hクラブの大谷英士朗氏、南広4Hクラブの久保田浩基氏、有田川町4Hクラブの谷端航平氏の3名がプロジェクト発表を行った。発表者は、緊張しながらも自信を持って発表し、審査員からの質問にも的確に回答していた。

審査の結果、最優秀賞に大谷氏の「防ごう！みかん農家の敵！～浮皮みかん～」、優秀賞に久保田氏の「フィガロン散布による味一みかん合格率向上対策」、努力賞に谷端氏の「株式会社Citrus GLOBAL G.A.Pに挑戦？」が選出された。

なお、3名は1月31日に開催された「県青年農業者会議」においても発表を行った。

また、発表終了後には、アグリビギナー等技術経営研修として、新規就農者11名が加わり、「農業経営基礎講座」を開催した。

農業経営アドバイザーの風神正典氏より「農業経営の現状を把握し、リスクに備える」と題した講演や先輩新規就農者による取組発表及びグループワークが行われ、受講者は熱心に説明を聞くとともに、質問も活発に行っていた。



プロジェクト発表



表彰式



農業経営基礎講座

V 日高振興局

1. 第32回地域農業を考える日高のつどいを開催

「元気！やる気！日高農業 われらが主役」

日高地方の農業士会、生活研究グループ、4Hクラブで組織する地域農業を考える日高のつどい実行委員会（実行委員長：谷廣美）は、1月17日、紀州農業協同組合印南支店において「元気！やる気！日高農業 われらが主役」をテーマに「第32回地域農業を考える日高のつどい」を開催し、会員、関係者約150人が出席した。

講演1部では、風神会計事務所の代表社員・税理士の風神正典氏から「農業経営を継続するために留意しなければならない消費税法改正（2019年10月）の内容理解とこれからの取り組みについて」と題して、8%から10%に上がる消費税の仕組みや軽減税率、「インボイス制度」などを解説、消費増税の影響について有意義なご講演を頂いた。

講演2部では、大道芸人のたつきゅうさんこと田久朋寛氏から「笑う門には健康が来る」と題して、大道芸を披露し、生活に笑いを取り入れる「笑いヨガ」の実演を頂いた。最後に情報提供として、経営支援課担い手育成班長の宮向克則氏から「わかやま農業経営サポート事業の取り組みについて」と題して、経営発展に向けた取り組みについて話を聞いた。

参加者から、消費増税の影響や経営発展の取り組み等参考になるとともに笑いで元気を頂いたとの感想が寄せられた。



実行委員長の挨拶



1部 風神氏の講演



2部 たつきゅうさんの講演



情報提供 宮向班長

2. 由良町農山漁村女性の日交流会を開催

由良町内の農業士会と生活研究グループ、J A紀州女性会、紀州日高漁協女性部等で組織する由良町農山漁村女性の日推進会（会長：片山綾子）は、1月18日、由良町中央公民館で同女性の日交流会を開催し、会員42名が参加した。

講師として九度山町の柿娘（かきっこ）グループの玉置恵子代表ら4名を迎え、「富有柿を通じて地域の活性化に取り組んで」と題して講話と柿の葉寿司づくり体験が行われた。

玉置代表は、講話の中で九度山町の特産である富有柿を使った加工品づくりや郷土料理の体験教室、小学生への食育、若者交流イベントなどにも取り組んできたことを紹介した。今後は、新商品の開発と販路の拡大、会員を増やして地域振興に貢献したいと話された。

その後、会員らは玉置代表らから教わりながら、柿の葉寿司づくりを体験した。サバやカマボコ、柿のかす漬けをすし飯の上に乗せ、柿の葉で巻いてからすし桶に詰め、柿の葉寿司を仕上げた。

会員からは、「柿の葉の保存方法を教えてほしい」、「柿の葉は購入できるのか」、「すし飯に使った酢は何か」など活発な質問があり、今後の活動の参考になったようだ。

同女性の日推進会は、会員相互の交流と知識の向上のため、毎年交流会を開催する予定である。



講師 玉置恵子代表



柿の葉寿司づくり体験

3. 日高地方生活研究グループ連協が食育推進研修会を実施

日高地方生活研究グループ連絡協議会（会長：後藤明子）は、これまで郷土料理の伝承や食育・地産地消、家庭向けのシカ肉料理の普及に取り組んできた。今回初めて給食関係者に地元食材と郷土料理等を紹介し、情報交換を図ることを目的に、1月25日、御坊市の財部会館で御坊市内の保育園調理師及び在宅栄養士等とともに食育推進研修会を行い、関係者等22名が参加した。

最初に、互いに自己紹介をした後、生活研究グループ役員から地元食材と地域資源（ジビエ）を使った料理等について説明した。その後、同役員が講師となり、給食関係者とともに料理実習を行った。当日は、日高地方の郷土料理であるかきまでご飯、シカ肉のはさみ揚げ、アカモクと大根の味噌汁、柿寒天、大根柚子漬けの5品を作った。皆で出来上がった料理を試食した後、地元食材の給食利用状況、食育体験の有無、給食のメニューづくり等について情報交換を行った。

給食関係者からは、「かきまでご飯は、懐かしくて保育園の給食で取り入れたい」、「アカモクは初めて食べた」、「シカ肉は柔らかくて臭みもなく、美味しかった」等の感想があった。

生活研究グループは、これからも他地域の給食関係者とも交流しながら、食育推進に努めていく予定である。



研修会



給食関係者との交流（料理実習）

4. 平成30年度日高地方青年農業者会議を開催

1月22日、印南町公民館大ホールにおいて、日高地方4Hクラブ連絡協議会（会長：柏木研哉）と日高振興局農林水産振興部の共催で、平成30年度日高地方青年農業者会議を開催した。日高地方の各市町4Hクラブがプロジェクト活動として1年にわたる取り組みをまとめ、発表・議論し、新しい農業および農村づくりに役立てようと毎年実施している。

今回は、発表順に印南町、みなべ梅郷、御坊市の3クラブから、プロジェクト発表がなされた。印南町4Hクラブは「印南の農業をつなげたい！～印南町4Hクラブの挑戦」と題し、クラブ員や農業後継者減少への危機感から、農業への興味関心をもってもらうべく、地元の小中学校に印南町の農業を紹介する活動について発表した。また、みなべ梅郷クラブは「ズバイ～棄てられていた枝を有効活用して地域の強みに～」と題し、剪定し終えた梅の一年生枝の先端部「ズバイ」を、廃棄せずに雇用により収集し、出荷することで新たな所得源の確保を目指す取り組みを発表した。最後に、御坊市4Hクラブは「スターチス栽培における固化培地苗の利用」と題し、スターチスを材料に新育苗技術である固化培地苗と従来のポリポット苗との生産性や経済性について評価・検討する発表を行った。

発表後、審査員（普及指導協力委員、南部高校教諭、就農支援センター職員、農業水産振興課長）から、目的や成果、今後の展望等についての質問がなされ、熱心な議論がなされた。いずれの発表も興味深い内容ばかりで審査員からの評価は非常に高く、地域の課題解決に引き続き取り組んでもらいたいと講評がなされた。審査の結果、印南町4Hクラブ新谷力氏の発表が最優秀賞を受賞した。

また、発表後には、農業水産振興課の菊地技師より、「農作業事故の防止」に関する研修会が行われた。

今回発表した3クラブは、1月31日に有田川町金屋文化保健センターで開催される県青年農業者会議に出場する。



発表



各クラブの発表者

5. 御坊市4Hクラブが園地巡回を実施 互いの園地で工夫を実感

1月30日、御坊市4Hクラブ（会長：中野光勝）は、クラブ員の園地巡回を行った。クラブ員それぞれの栽培している作物や品種が異なっていたり、自らの栽培方法以外は知識に乏しいとのことから、クラブ員相互の園地を訪ねて視野を広げ、知識を深める目的で初めて企画された。

野菜の施設栽培をしているほ場では、夏秋作キュウリの後に不耕起でウスイエンドウを作付ける方法に、「マルチや支柱をそのまま利用できて省力的だ」、また、灌水チューブと点滴灌水の2系統を設けたスターチスほ場では、「状況に応じた灌水が簡単にできる」とそれぞれの工夫に感心していた。その他、ピーマンの栽培施設や地域農業士の川島一夫氏のミニトマトほ場などを見学して知識を深めた。



キュウリの後作の不耕起ウスイエンドウ



2系統の灌水チューブを施した
スターチス栽培

VI 西牟婁振興局

1. 川添緑茶研究会が新春初もみ会と初もみ茶を楽しむ会を開催！

1月14日、川添緑茶研究会(会長：上村誠)が、JA紀南市鹿野製茶工場と川添山村活性化センターで、手もみによる製茶体験とできたお茶を試飲するお茶会を開催した。毎年、一般に広く参加募集しており、今年は初もみ会に26人、お茶会に38人の参加があり、京都や奈良からの県外参加者を含む老若男女が煎茶に親しんだ。

初もみ会に使用する原料は、研究会会員が昨年5月に収穫した一番茶芽(収穫後、蒸して冷凍保存)を使用した。3台の手もみの作業台(焙炉(ほいろ))に参加者が分かれ、手もみ技術者の手ほどきを受けながら体験した。初めて体験する方も多く、柔らかくも力強い手の動きと長時間に及ぶ体力の消耗に悪戦苦闘しながら、約5時間半かけてもみあげた。茶葉をもむうちに形が徐々に針状へと変化する様に参加者らは驚きつつ楽しんでた。

初もみ茶を楽しむ会では、白浜町長による開会の挨拶の後、各焙炉ごとに製茶した手もみの荒茶と、昨年5月に市鹿野地域へ赴任した地域おこし協力隊の福永氏が、第26回全国手もみ茶品評会(全国手もみ茶振興会主催)に出品して二等を受賞した貴重な茶を試飲した。

各焙炉の手もみ茶は、淹れる温度(50℃の冷まし湯と熱湯)と、もみ手による味の違いを確認した。参加者からはこれらの違いによって茶の味に変化があることに関心を抱く声があった。

品評会二等受賞茶については、45℃の冷まし湯で試飲したところ、「出汁のようなうま味が口いっぱい広がって残り続ける」、「自分が思っていたお茶とは別の飲み物のように感じる」等、自分たちの手もみ茶とのうま味の奥深さの違いに大きな驚きと感動の声があがった。

参加者らは、このような手もみ体験を楽しむとともに、煎茶への興味や理解がさらに深まった様子であった。



5時間半、みんなと一緒にもみあげました！



煎茶に魅了された参加者

2. 第1回女性起業支援研修会を開催

農業水産振興課では、1月29日、田辺市民総合センターにて、地元素材のさらなる活用を目的とした研修会を開催し、起業や地元素材を使った料理に関心のある女性19名が参加した。

講師は田辺市出身でフランス料理のシェフである林拓郎氏で、「地元素材のうまみをどう引き出すか」をテーマに開催した。

まず、林シェフから素材のうまみを引き出すために、気を付けるポイントについて講話があった。普段は何気なく調理している素材も、性質を理解したうえで調理をすることでうまみを最大限に引き出すことができる。例えば、塩は原則、先に入れることで野菜の水分を出し、うまみが引き出される。シャキッとさせたいときには強火でさっと加熱し、甘みを引き出したいときは弱火でじっくりと加熱する。火加減はコンロによっても違うので、素材を入れた時の音の具合で調整するのがポイント。また、野菜の食感や色合い、香りを活かしながら、野菜にない味は他の食材で補い、1つの料理の中で味のバランスを意識することが重要とのことであった。

続いて、「地元鮮魚のアクアパッツァ」、「ファルファツレとアボカドの梅肉あえ」、「季節の野菜の蒸し焼き〜ミカンドレッシング〜」の3品について、調理実習と試食を行った。林シェフからは、「盛り付けた時のバランスを考えて野菜の大きさや切り方、彩りを考えることで、レストランで食べるような料理に仕上がること、レシピはあくまで参考で自分の好きな材料、気に入った味に仕上げてもらえれば」とのアドバイスがあった。

参加者からは、「自宅にあるもので作れると知って驚いた」、「作る前は難しそうと思ったが、意外と簡単に作ることができた」、「盛り付け一つでこんなにおしゃれになるなんて！」などの感想があった。

なお、当課では、第2回研修会として2月に和歌山県産品のセレクトショップを営む店長による販売促進の講演会を実施する予定である。



調理を実演する林シェフ



調理実習



盛り付け方も一工夫

3. 西牟婁地方農業士会連絡協議会女性部会が先進地研修を開催！

1月31日、西牟婁地方農業士会連絡協議会女性部会（部会長：抜田佐代）は、紀美野町の生石加工グループの活動内容とJAながみねファーマーズマーケットとれたて広場での農産物や加工品の販売状況等について調査するため、先進地研修を実施した。

当日は、女性部会員10名及び西牟婁振興局農業水産振興課職員2名が参加した。

生石加工グループの寺中会長から、これまでの活動内容や現在の活動状況について講話があり、その後同グループで手づくりした昼食をとりながら、講話の内容や昼食メニューについて、活発な意見交換を行った。また、和菓子づくり体験として、「つやぶくさ」と「三色大福」づくりに挑戦した。

JAながみねファーマーズマーケットとれたて広場では、杉本店長から店舗内において、農産物や加工品の販売状況についての説明を受けた後、同JA統括の湯川氏からこれまで取り組んできた経験をもとに、梅やみかんの販売状況や梅を加工する上でのちょっとした工夫について講話があった。

参加した部会員からは、「グループ活動での課題や悩みは共通したものがあり、今後活動する上で大変参考になった」、「昼食のメニューは手が込んでいて自分たちがイベント等で加工品を作る上で活用できることがたくさんある」、「JAながみね職員さんからの梅ジュースを作るのに金平糖を使うのは面白い」などの感想があった。

なお、今回の研修会では会員各自の研鑽を図るとともに、会員相互の交流を深めることができ、また、今後の同女性部会での取り組みの一助となった。



生石加工グループ寺中会長の講話



手作りした和菓子を試食



生石加工グループさんとともに



JAながみね職員による講話

Ⅶ 東牟婁振興局

1. 重点プロジェクト【新規就農者の育成を核としたイチゴの産地育成】 ～イチゴハダニ類の天敵防除実証圃で天敵追加放飼を実施～

1月30日、那智勝浦町苺生産組合(会長:栗野稔近)は、イチゴの天敵を利用したハダニ類の防除実証圃(土耕栽培1ヶ所と高設栽培1ヶ所の計2ヶ所を11月に設置)で天敵の追加放飼を行った。

イチゴの主要害虫であるハダニ類は化学農薬抵抗性の発達が問題となっており、化学農薬と天敵カブリダニを併用した防除方法の導入が必要となってきた。

防除体系における天敵の放飼スケジュールでは、11月頃に天敵放飼後、2月頃に追加放飼を行う。今回は防除体系に沿って追加放飼を行った。

当日は、農業水産振興課堺副主査から天敵の放飼スケジュールと放飼後の管理方法について説明を行った後、園主と共に天敵の放飼を行った。

最初の天敵放飼後すぐの11月は天敵をほとんど見つけられなかったが、今回はハダニ類の発生の多い葉の一部で天敵が確認された。天敵を追加放飼することで、安定した効果を見込む。

今後も継続して実証圃のハダニ類と天敵の密度を調査することで天敵の効果を確認し、現地研修を通じて地域への普及を図っていく。



天敵放飼（高設）



天敵放飼（土耕）

Ⅷ 農林大学校 就農支援センター

1. 特別研修「フラワーアレンジメントについて」を開催

1月16日、切り花の使い方について知識を深め、付加価値を高めることを目的に、御坊市名田町のバラ栽培農家でフラワーアレンジメントの教室も指導している山本修功氏を講師に招き、特別研修「フラワーアレンジメントについて」を開催した。この特別研修には社会人課程および技術修得研修の研修生計16名が参加し、切り花の取り扱いについての説明とフラワーアレンジメントの指導を受けた。

まず講師より、切り花の取り扱いについて、水揚げの方法や長持ちさせる方法などの説明があった。つづいて講師が実演を行い、用意した花を使って花の組み方や入れ方などの解説を交えながら、綺麗に仕上がった花束はそれ自身で立つことを研修生に説明した。

フラワーアレンジメントの実習では、花を挿し入れる位置と順番を講師が示し、それに従って研修生はバラやスターチス、ストック、キンギョソウなど11種類の花を使ってアレンジメントを仕上げた。

参加した研修生はフラワーアレンジメントを初めて経験する者がほとんどで、研修生からは「初めてなので難しかったが楽しかった」、「良い経験になった」、「花に対しての考えが変わった」などの意見が出て、大変有意義な研修となった。



講師による説明



フラワーアレンジメントの実習

2. 特別研修「産地視察」を開催

1月28日、花き・野菜・果樹の各産地を視察する特別研修「産地視察」を開催した。視察先として、御坊市名田町のスターチス農家の齋藤喜也氏、印南町島田地区のミニトマト農家の中本和彦氏、田辺市上秋津地区の都市農村交流施設「秋津野ガルテン」や直売所「きてら」、また晩柑類農家の木村則夫氏の元を訪ねた。特別研修には社会人課程および技術修得研修の研修生計15名が参加した。

研修生は各訪問先の農家からスターチスやミニトマト、晩柑類などについての生産状況や販売方法についての説明を受けながら、和歌山県内の花き・野菜・果樹産地の概況について理解を深めた。「きてら」や「秋津野ガルテン」では、地域の中の農業の役割、地域住民や都会の住民との関わり方などについて学ぶ貴重な機会ともなった。研修生らは「今後の自らの農業経営の参考にしたい」と、熱心に説明を聞き、多くの質問をしていた。



齋藤氏によるスターチスについての説明



秋津野ガルテンの見学

IX 経営支援課（農業革新支援センター）

1. 和歌山県農業士会連絡協議会 青年農業士部会活動

経営発展セミナー、車座座談会に参加

1月18日、紀の川市打田生涯学習センターで開催された「第3回経営発展セミナー（主催：わかやま農業経営サポートセンター）」の講演及び車座座談会へ、県農業士会連絡協議会青年農業士部会活動の一環として、県下各地から11名の青年農業士が出席した。

第1部の経営発展セミナーの講演では、「これからの地域農業と進むべき道！」～農地の利用と6次産業の取組～として、株式会社兵庫大地の会・有限会社夢前夢工房代表取締役社長の衣笠愛之氏から、農産物生産、加工品開発や農家レストラン、若い農業者を育てる取組の紹介があった。

第2部の車座座談会では、青年農業士の松本一輝部会長の挨拶の後、県庁経営支援課担い手育成班の宮向班長がコーディネーター、講師の衣笠氏がオブザーバーになり、「連携による農業経緯の発展について」をテーマに情報・意見交換が行われた。

参加者からは、「県内の農家同士の横の繋がりで人材情報の共有ができる仕組み作りが出来ないか」など、活発に意見交換が行われた。

経営支援課では、今後も様々な農業士会の活動を支援していく。



第1部 講師：衣笠氏



車座座談会での松本会長挨拶

2. 県農林水産業のリーダーを認定

～平成30年度農業士・林業士・漁業士認定式を開催～

1月29日、ダイワロイネットホテル和歌山で、平成30年度農業士・林業士・漁業士認定式を開催した。

仁坂知事、藤山県議会議長はじめ、各関係団体等の代表者を来賓に迎え、今年度新たに認定された農林漁業士や関係者等、約130人の出席があった。

式典では、仁坂知事から農林漁業の各分野で後進の育成指導等に功績のあった指導農業士等に対し感謝状の贈呈があり、14名の方々が直接、感謝状を受け取った。

続いて今年度認定された農林漁業士80名（うち農業士は66名）に認定書の交付が行われ、指導、地域、青年農業士等それぞれの代表者が認定書を受け取った。

仁坂知事の式辞、藤山県議会議長の祝辞の後、感謝状を受け取った方々を代表してかつらぎ町の松岡和美氏（指導農業士）が挨拶、新たに指導農業士に認定された海南市の藤坂奉子氏が「地域の農林水産業、農山漁村の活性化に一層努力する」と誓いの言葉を述べた。

経営支援課では、引き続き農業士の活動を支援していく。



知事、議長を囲んで感謝状被贈呈者の記念撮影



指導農業士代表で認定書を受け取る南村氏

3. 平成30年度和歌山県青年農業者会議が開催されました

1月31日、標記会議が和歌山県4Hクラブ連絡協議会（会長：小杉耕平）、（公財）和歌山県農業公社（和歌山県青年農業者等育成センター）の主催、県の協力のもと、有田川町金屋文化保健センターにおいて開催された。青年農業者46名、農林大学校23名、県内の農業系高等学校（紀北農芸、有田中央、南部、熊野）29名、関係者17名、合計115名が参加した。

本会議は、直面する農業経営上の問題解決や農業を取り巻く問題を研究討議することで地域農業の発展に寄与するとともに、農林大学校及び農業関係高等学校の学生に対し、就農に対する意識を向上させることを目標として開催しており、当日は、県内の青年農業者が一堂に会し、日頃の調査研究活動や自らの経営の成果、目標等について発表を行った。

青年農業者からは、プロジェクト発表8課題の発表があり、当センターの初山農業革新支援センター長を審査委員長に、6名の審査員（農業革新支援センター長、農林大学校教授、農林大学校就農支援センター所長、県農業公社事務局長、県農業士会会長、県4Hクラブ会長）で課題の内容、計画や実施、評価と反省、発表について審査が行われた。

審査の結果、最優秀賞（知事賞）には和歌山県4Hクラブの前山明日規氏（#これはもうミカン映え）、優秀賞（県農業公社理事長賞）には湯浅町4Hクラブの大谷英士朗氏（防ごう！みかん農家の敵！～浮皮みかん～）、奨励賞（県4Hクラブ連絡協議会会長賞）には印南町4Hクラブの新谷力氏（印南の農業をつなげたい！～印南町4Hクラブの挑戦）が選ばれた。

なお、前山氏は、来年1月に和歌山県で開催予定の近畿地域農業青年会議において、プロジェクト発表部門で県代表として発表する予定となっている。

また、審査時間を活用して、農林大学校生及び高校生から特別発表（プロジェクト発表、意見発表）が行われるとともに、交流会として青年農業者及び学生が生産する農産物等の展示や試食、意見交換が行われた。



受賞者

（左から前山氏・大谷氏・新谷氏）



交流会

普及活動現地情報 発行・編集

和歌山県農林水産部経営支援課	TEL073-441-2931	FAX073-424-0470
海草振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL073-441-3377	FAX073-441-3476
那賀振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0736-61-0025	FAX0736-61-1514
伊都振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0736-33-4930	FAX0736-33-4931
有田振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0737-64-1273	FAX0736-64-1217
日高振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0738-24-2930	FAX0738-24-2901
西牟婁振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0739-26-7941	FAX0739-26-7945
東牟婁振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0735-21-9632	FAX0735-21-9642
和歌山県農林大学校	TEL0736-22-2203	FAX0736-22-7402
和歌山県農林大学校就農支援センター	TEL0738-23-3488	FAX0738-23-3489